

仙谷地区西側丘陵 仙谷 8 号墓の発掘調査
平成 26 年度 第 1 回 現地説明会資料

平成 26 年 8 月 24 日 (日) 鳥取県立むきばんだ史跡公園

国史跡妻木晩田遺跡には、洞ノ原墳丘墓群 (後期前葉～中葉：1 世紀後半～2 世紀前半)、仙谷墳丘墓群 (後期中葉～終末期前半：2 世紀前半～3 世紀初め)、松尾頭墳丘墓群 (終末期後半：3 世紀中頃) に、弥生時代の村を治めた有力者たちを葬った墓があります。

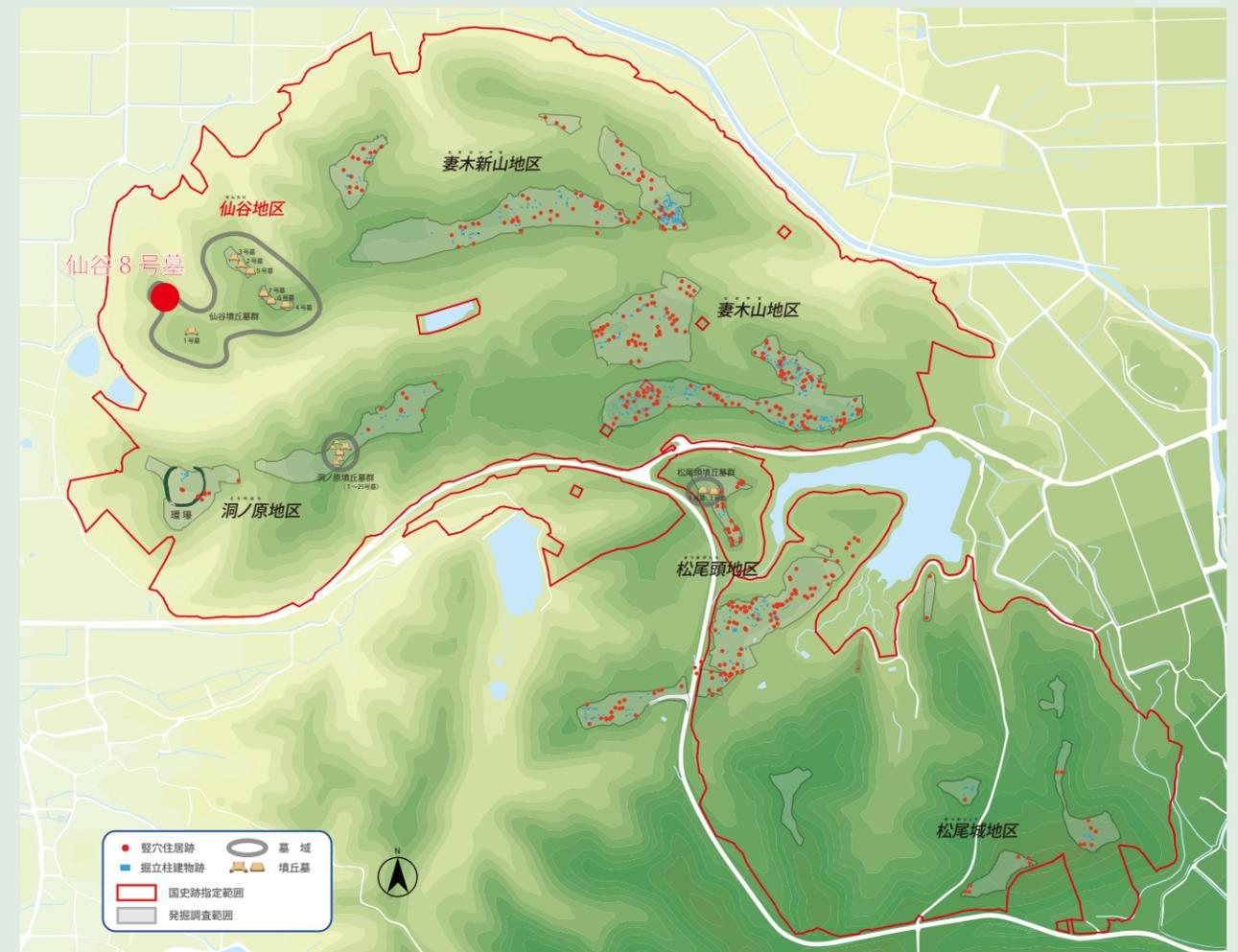
むきばんだ史跡公園では、この遺跡に営まれていた弥生時代の村が最盛期を迎える弥生時代後期中葉～後葉に造営された墓域の実態を明らかにするため、平成 22 年度から仙谷地区で発掘調査を継続しています。本日、ご案内する仙谷 8 号墓は、平成 23 年度に調査を開始して以来、大きな蓋石を伴う希少な埋葬施設が注目されてきた墳丘墓です。これまでにも、トレンチによる部分的な調査によって、墳丘を区画する溝や埋葬施設の一部が確認されました。現在は、墳丘の形状を正確に把握するとともに、埋葬施設の本格的な発掘調査を検討しており、これから、蓋石を一部取り外して、埋葬施設の構造などを確認する予定です。



仙谷 8 号墓 (平成 25 年 12 月 2 日撮影)



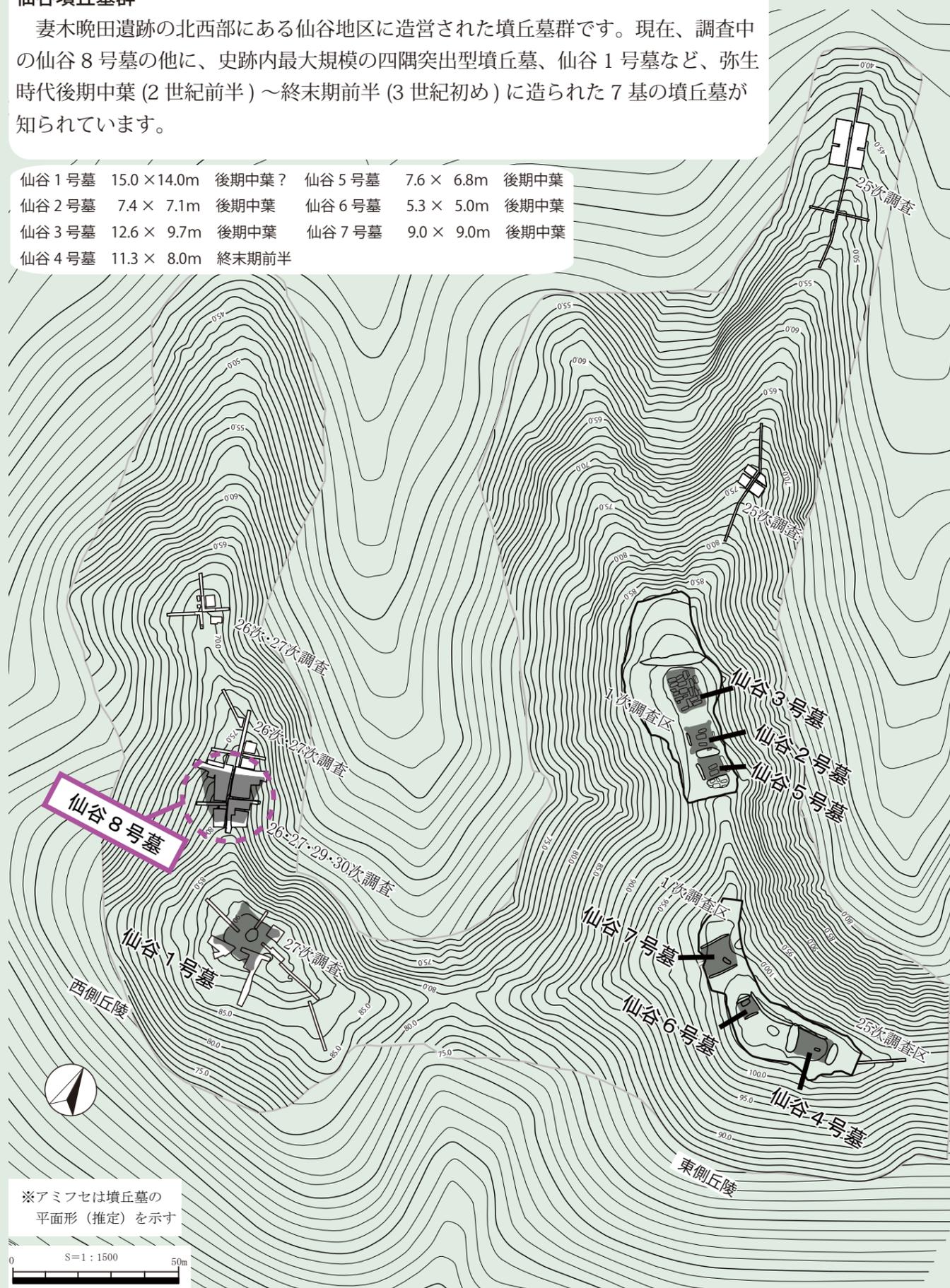
埋葬施設 (平成 26 年 8 月 20 日撮影)



仙谷墳丘墓群

妻木晩田遺跡の北西部にある仙谷地区に造営された墳丘墓群です。現在、調査中の仙谷8号墓の他に、史跡内最大規模の四隅突出型墳丘墓、仙谷1号墓など、弥生時代後期中葉(2世紀前半)～終末期前半(3世紀初め)に造られた7基の墳丘墓が知られています。

仙谷1号墓	15.0 × 14.0m	後期中葉?	仙谷5号墓	7.6 × 6.8m	後期中葉
仙谷2号墓	7.4 × 7.1m	後期中葉	仙谷6号墓	5.3 × 5.0m	後期中葉
仙谷3号墓	12.6 × 9.7m	後期中葉	仙谷7号墓	9.0 × 9.0m	後期中葉
仙谷4号墓	11.3 × 8.0m	終末期前半			



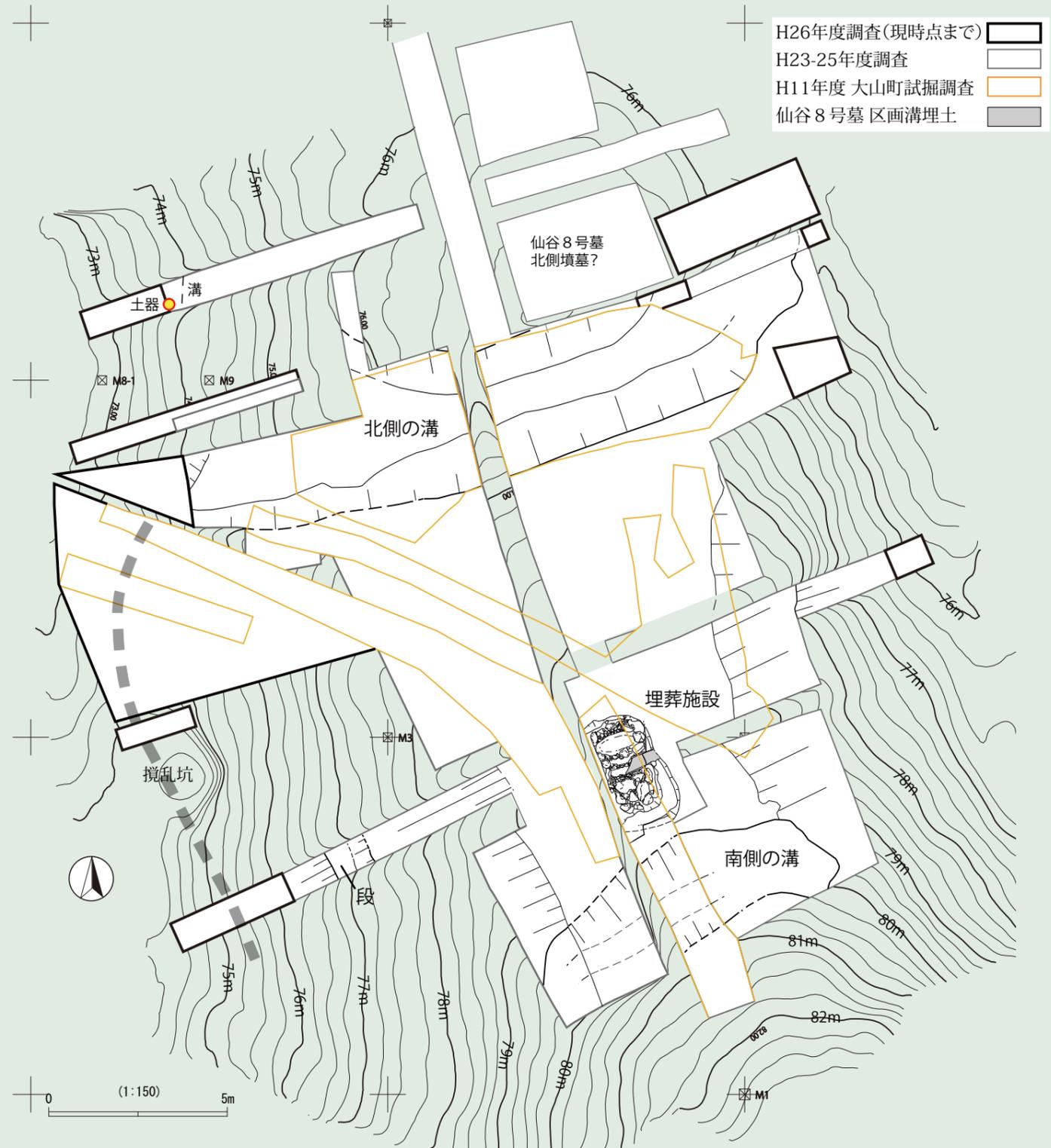
仙谷墳丘墓群

仙谷8号墓

規模は東西推定20m、南北14.6m。遺物が出土していないため、築造時期は不明。弥生時代の墳丘墓ならば、妻木晩田遺跡最大の墳丘です。南北に溝を設け、墳丘を区画しています。南から北に向かって幅広になる尾根の地形を利用しており、墳形は歪な台形をしています。北側を区画する溝は、尾根の基盤となっている礫まじりの地層を深く掘り抜いており、中央付近では、溝の高低差が2m(溝の底面-墳丘側の上端)ほどあります。また、溝の底面と墳頂部との高低差は4mにもなります。墳丘上では、土を盛った痕跡も確認できました。溝を掘ったときに生じた土などを利用して、墳丘に盛土を施し、形を整えられていたものと考えられます。

埋葬施設

棺に遺体をおさめた後に、大きな礫を4枚並べて蓋をしています。蓋石は南から北の順に並べられています。最後に置かれた長楕円形の蓋石は長軸が約1.2mもあります。そして、蓋石の隙間に拳大の石を詰め、最後に、蓋の縁にそって人頭大を左右対称となるように並べています。



仙谷8号墓

※アミフセは墳丘墓の平面形(推定)を示す

